

# 完成！ふくろう案山子 ふくろうふれ愛まつり準備開始！



▲8月27日に入居者が見守る中、地域交流委員会の皆さんの手で広場前にお披露目しました

今年も地域交流委員会の皆様の協力の下10体のかかしが出来上がりました。

作成当日の8月24日は大雨でしたが、北岡会長を先頭に地域交流委員会の皆さんが前日に切り出した青竹を切り割り、午前中には出来上がりました。

衣装付けは翌25日の午後から行い、入居者も参加され、援助を受けながら6体の作成を担当されました。入居者で盲ろう者の藤本さん(72歳)が、慣れた手さぐりと針さばきで、ほとんど一人で一体を完成されたことには敬服しました。

4体を地域交流委員会の皆さんが担当され、淡路聴力障害者協会、サークルの方もボランティアとして参加され、協力して出来上がったかかし達が午後4時頃に勢ぞろいしました。

豊作と皆様の健康、そして10月27日に開催の、第8回ふくろうふれ愛まつりの参加者を出迎え、まつりの成功を見守ります。

## テーマ「淡路のあまちゃん めざせ100歳越えて」

# 第8回ふくろうふれ愛まつり

### とき：10月27日(日) 10時～15時(予定)※小雨決行

#### 今年が目玉企画

手話芝居「その火 その歳 飛び越えて ふくろうのメモリー(仮題)」  
劇団ふくろう 劇団いぶき(岐阜)のジョイント公演

## 故人を偲ぶ〜送り火〜

8月16日ふくろうの郷でお盆の送り火を焚き、亡くなられた方を偲びました。

お盆の入りの8月12日には「迎え火」を焚いて「先祖様や故人をお迎えします。

お盆のお供え物として用意されるものが「きりませ」というキュウリとナスを細かく切つて米を混ぜたものを用意し、これをハスカサトイモの葉にのせてお供えします。この他にも団子や故人の好物だったものをお供えしたりします。

16日の夕方に焚く「送り火」の煙のついでに先祖様たちはあの世へ帰ると言われています。

参加された入居者のみなさんは淡路ふくろうの郷で亡くなられた仲間たちを偲び、拜んでいたいと思います。

亡くなられた方のことを思い出して語り合うことは、その人が心の中で生きていて大切な時間だと思えます。(担当・・・神代)

# ふくろう新聞

<発行>

特別養護老人ホーム  
淡路ふくろうの郷  
広報委員会

洲本市中川原町中川原28番地1  
TEL:0799-25-8550  
FAX:0799-25-8551

ホームページ  
<http://hyoufuku.main.jp/>  
メール  
[info@hyoufuku.main.jp](mailto:info@hyoufuku.main.jp)

障害者が65歳になって介護保険の第1号被保険者になると「介護保険優先」の原則により、介護保険サービスに移行されます。所得に関係なく1割負担となる上に、介護保険でサービス量が足りなくなり、またサービス内容に制約があります。岡山市に住む浅田さんが、「そんなに請求されたら生

きていけない」「支援法による給付を一切受けさせなかったのは憲法14条に違反する差別である」「重度障害者に対するサービス不支給はいのちを奪いかねない生存権侵害で憲法25条に違反する」と岡山地裁に提訴しました。  
誰も人間らしく尊厳ある人生を送ることは、国民の権利です。

# 今年も、定期健康診断を受けました

平成25年6月21日(金)に 淡路ふくろうの郷にて入居者と

職員との定期健康診断を行いました。約1か月後に健診結果が届きました。職員の健診結果については、産業医である高田先生に見せ相談し、入居者の健診結果については、管理医に見せ、それぞれ相談しながら引き続き必要な支援を継続していきます。

午後からは入居者が身長から計測を始め、血圧や視力検査、血液検査、心電図、レントゲン車にてレントゲン撮影を受け、最後に医師の診察を受けました。朝から健診がスムーズに進むように職員と協力して採尿をし、職員は午前中に受けているために次に応じた検査を受けるのが分かっていたので、入居者に通訳しながら一緒に健診に付き添いました。

車イスの方がレントゲン車に乗る時に専用の車イスに乗り換える必要があり、移乗の援助が大



(看護職員：・・・渋谷 裕子)

## 『サービス評価』で 職員自身を 見直す機会に

淡路ふくろうの郷は10月4日(金)サービス評価を受けました。

サービス評価とは一般社団法人兵庫県老人福祉事業協会が実施主体となり、外部評価を希望する特別養護老人ホームを対象に行われ、今年度は兵庫県老人福祉事業協会加盟の15施設が受けることになっていきます。作業の流れとしては、まず

ふくろうの郷の全職員を対象に 現在は全職員で自己評価を

87項目の評価基準アンケートで自己評価をし、まとめたものを他の施設職員で構成する評価委員と共に内容確認・課題整理・改善方法を検討し、サービスの質の向上を行っていきます。そしてこのサービス評価の結果を広く一般に公開することにより、事業を実施した施設の概要や特徴的なサービスについて利用者を知ってもらうと共に、施設選択時の指標として活用できる情報として提供を行うことを目的としています。

10月4日の評価委員による評価を受けることで、新たな気づきを得たいと思います。

(総務主任：・・・橋詰 恭子)

## エンパワメントされた私

松山東雲短期大学介護福祉専攻社会人グループ

佐藤ちぐささんの感想文より

☆人間である以上、社会との結びつき無くしては存在しえない。ところが、聴覚障害者(難聴)者はその権利すら奪われて

きた。こちら『淡路ふくろうの郷』でそのことを初めて知り、ひどく衝撃を受けた。孤独死するなんて…辛すぎる。

難聴者は、声を挙げることも

も出来ず、その為の機会や手段すらもあたえられてこなかったのだ。

私は、半世紀何を見ていたのかと思う。

☆人間関係に傷ついたり、壊れ

たり、破綻したりすることは誰にでも起こりうる。そして、それらの大半は修復されたり、忘却により過去へと昇華されてゆく。

ところが、ここにいる皆さんの場合、まるでDNA損傷かと思われるほど、大きな痛手を負い、また深く受傷されている。

(3面へつづく)

# 瀬戸内の美しい海へ海水浴 淡路市 多賀の浜へ

8月9日に多賀の浜へ海水浴が行ってきました。行く前から黒崎さんや竹辺さんをはじめとする入居者さんがとても楽しみにしておられました。年齢的に泳ぐのは難しいのですが、黒崎さんだけは腰まで海につかっています。初めて行く海水浴場だったので、皆さん新鮮で喜んでおられました。ポランティアの松岡さんがボートを持って来て下さって、黒崎さん、福島さん、竹辺さん

が1番に乗って楽しめました。次に西田さんが福島さんと交代して乗り込み、楽しまれています。黒崎さんが松岡さんと一緒にオールをこぎ、海を一周しました。照りつけるような暑さの中、倒れないか心配でしたが、皆さん童心に戻られて楽しまれました。

ボートに乗らなかった方たちは、日陰でスイカ割りを楽しませていました。ボート組も後から合流し、一緒にスイカを堪能させていただきました。



▶スイカを食べる山口和子さん

皆さん「美味しい！」とスイカをたくさんおかわりされて、3つも4つも食べた方もおられました。やっぱり暑い中で食べるスイカは最高ですね。

ご協力下さいました松岡さん本当にありがとうございます。またよろしくお願いします。  
(生活支援係：田中 愛里)

(2面つづき)人間をそこまで傷つける権利が、どんな利害や既得権益で導き出せるのかと、強い怒りが湧く。

☆以前、横浜訓盲院の院長から、レクチュアを受けた時にも、人間の尊厳を、そこまで侵せるものかと心が潰れた覚えがある。しかしなぜか今回の印象は、それとは少し異なった。なぜだろうかと顧みる。

それは(たまたまだったのかも)存在しないような脆い人に出

会わなかったせいだ。

淡路ふくろうの郷の聴覚障害者さん達、激動を生き抜いて来られた分、個性に磨きがかかり

そして逞しく感じられた。

☆緊急避難の場としてではない、癒しのある普通の暮らしの場(入所者主体、働き、学び、寛ぐ場)。それが、各都道府県に1箇所つづら置かれていない現実。

(愛媛県八幡浜市出身の方が、ふくろうの郷へ:etc)

聴覚障害者は視覚障害者と違い外見上健全者と変わらない

為、深刻には捉えられず、亦周知もされてこなかった背景があるのだと知る。

☆誰もがこの運命をあまんに生きようとする中、より積極的

に生きていける場を提供しよう

と努力して来られた淡路ふくろうの郷の姿に触れ、感銘を受けエンパワメントされた。

自身 先天性の内部障害の複数ある身であれば、その思いはより強く、共生社会実現に向けて出来ることをして行きたいと思っています。

豊治様は、久しぶりの対面であるお墓に感慨深そうに、両手を合わされました。妹様から

は、自分史づくりの為に幼いころ

のことや結婚してからのご夫婦の様子など、貴重なお話をいただきました。ふさ子様が亡くなられたことは残念なことですが、自分史を完成させ、お二人の人生に寄り添い学びたいです。

(相談員：竹原 哲章)

## 故 花房ふさ子様の納骨



▲久しぶりのお墓と対面する花房豊治様

8月29日は惜しまれて86歳で亡くなられました故花房ふさ子様の49日の法要と納骨でした。明石市の大蔵院へ夫の花房豊治様と入所者3名と共に行了きました。豊治様の妹様もお越しになり、住職に本堂でお経をあげていただきました。その後、豊治様自らが建立されたご両親等が入られているお墓を参り

**おのころの家**



〒656-0025  
洲本市本町3丁目1-10  
清水マンション1F  
TEL・FAX 0799-26-0956

**故郷は京都…  
溝渕せつさん (56才)**

淡路島外から嫁いできている人が珍しい中、京都から嫁がれていきます。環境も風習も違う淡路には昭和63年に。手話の表現も違ったり、知った人もいないところで、嫁がれてすぐはきつと戸惑われた事と思います。



箱折りをしている溝渕さん

私も出身は兵庫県だけど島外から来ているので慣れるまでは心細かった事を覚えてます。なかなか実家にも帰っておられないようですが、テレビ等で京都が紹介されると食い入るように、そして目を輝かせて見ておられます。

**仲間たちと一緒に  
同じ仕事を頑張っている**

平成17年のおのころ作業所の時から利用されてきました。長い間仲間に入りづらく皆とちよつと離れたところにおいて一人別の作業をするという事が多かったのですが、ようやくはおのころの家の一員としてしつかり居場所があり、皆と一緒に同じ仕事を頑張っていておられます。線香の箱折りが今の仕事ですが、皆と向かいあって並んで一生懸命に箱折りをしています。折りが上がった箱がどんどん増えて机の上に高く積み上がってきます。前に座っている人の顔が見えなくなることもあります。皆と一緒に笑ったり、悲しんだりして過ごされています。

**自分の趣味より**

**就労の自己決定**

自己紹介等で「趣味は？」と聞かれると「織り物」と答えられました。そうか最近仕事、仕事で自分の楽しみ事についてゆつくり話し合えています。織り物が仕事になるように工夫してゆきたいと思いました。

最後の一箱になるとがせん皆の力が入ります。最後の1つを織り上げると達成感でみんなの顔はとて誇らしげです皆のそんな顔を見るととてもうれしく思います。「えくもう折れたん？」

(支援員 藤本)

**おのころの家**



〒656-0025  
洲本市本町7丁目3-41  
営業日時：月～金 9:00～18:00  
TEL・FAX 0799-22-6133

**秋の新商品に向けて  
販売計画を立てる**

今年8月は異常気象でとても暑くスタッフたちもつかれ気味

去る8月31日(土)、全国聴覚障害者地域活動支援センター等自主交流会が淡路ふくろうの郷で行われました。

まずは「続・一人ひとりが輝く」地域活動支援センター等をさらに広げるために講演で①現在の運動の柱に、地活センター・就労支援・在宅ろう者の援助が欠落、②意思疎通とコミュニケーション・情報アクセス権もとても大事な柱であるが、暮らしと人生に寄り添い人生の満足に繋がっているかが重要であると問題提起されました。

個人個人の抱える人権蹂躞・権利の制限に対する援助はもとより、コミュニケーション・意志疎通・情報に関する保障の仕組みづくりや個別援助を、その個人の暮らしと切り離してはならず、生理的なニーズを充足するための日常生活行動の困難への援助の創出も含めて、生きる意欲の向上、存在することの意味や価値がみんなの中で意識できる、そういう総合的な援助とその保障を作り出す必要

性提起されました。特に『貧困社会』と言われる暮らしも人生も剥奪してしまう厳しさの中、地域活動支援センター・就労支援・ホームヘルプ・相談支援、それらの働きが相互連携のもとに、チームとして提供されて一人ひとりの暮らしと「人生の満足」に繋がっていくこと。そうした視点を貫く事も提起されました。そして、住みなれた地域を、住みやすい地域にしていくこと、例えば、在宅介護の拠点施設として、小規模多機能施設が広がっているが、ショートステイ・デイサービス・ホームヘルプの機能を参考にしつつも、それを機械的に当てはめず、「ろう者版」あるいは難聴者を含めた「聴覚障害者版」の小規模多機能施設を目指していくこと、二日目に討論されました。これまで開拓実施してきた機能・役割を整理統合し、コミ支援も含めて、ろう者の暮らししている地域単位に作っていききたいものです。

(橋詰)

**貧困社会はコミュニケーションをもとより生活と人生を丸ごと奪う社会**

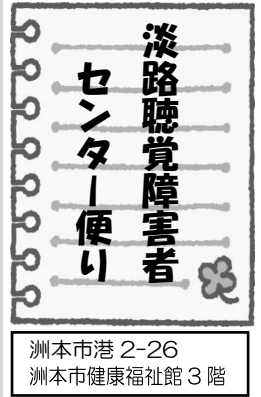
全国聴覚障害者地域活動支援センター等自主交流会開催 (淡路ふくろうの郷で)



全国聴覚障害者地域活動支援センター等自主交流会の1日目に初めて参加しました。コミュニケーション、意志疎通の大切さを知りました。今までの「夢を抑えつけられてきた人生」をどのように花開かせられるようになるのか。そしてどこまで支援していくか、相手の希望されている事、悩みは何なのかを職員同士、仲間たちと話し合っていました。(支援員 楠本)

でした。そんな時、クッキー250袋の注文を頂きました。いつ作るかを相談したところ、皆さん「今でしょ!!」とお盆休み返上で頑張って作り、無事に納品する事ができました。

秋の新商品も考え中で・・・試食をしては材料の変更や調節をして、洲本レトロなまち歩きには販売ができるように目標を立てています。又、ふくろうふれ愛祭りの時には数量限定ですが手作りピザを体験型で皆さんと一緒に焼く計画もしております。よろしくお願ひします。でも、それまでには全員ぼっちゃりになりそうなので心配です。(職業指導員 岡本)



**一人ひとりのろう者の  
語りを大事にした調査を  
更に進めよう**

**兵庫県聴覚障害者実態調査中間報告会**

9月8日、神戸市総合福祉センターで中間報告会が開催され、調査員80人が参加し、取組の状況や調査で得られたこと、問題、課題などが報告されました。調査には様々な困難が伴いますが、それぞれ地域で知恵を出し合って進められており、そのことが調査員の力も伸ばしています。熱意を持って意義を語る中で非会員の中には理解を示し、再度サークルに顔を見せるようになった方がおられたりと嬉しい報告もありました。財産問題や兄弟の結婚式、親の葬式にも呼ばれないなどの家族からの疎外や、職場での差別など生活のさまざまな問題についても語られた例も多く、ろう者も胸の内に秘めていた苦しさを語れ、自分の人生について改めて振り返る機会、また調査する

立場のろう者、健聴者もろう者問題の深刻さについてじっくり話を聞けるこの調査の意義は大きいとの報告がありました。

こどもチームからは聴覚障害児のインテグレートが進んでいる中で状況が把握しにくい状態でしたが、教育委員会、特別支援学校、難聴児クラス、親の会などに調査協力をお願いする中でつながりを作ることができた。18歳未満で手帳所持者は700人もいる。今後、後にも良い協力関係を作り、実態を把握していきたいとの意見もありました。

Eさんの母親はろう者の子どもを出産し、どのように育てたら良いのか自責の念にかられ、Eさんを入れて自殺を考えたこともあったが、父親から「この子は聞こえなくても成長するのだから」と言われ、母親は自殺を思いとどまった。その後、Eさんは6歳で大阪市ろうあ学校に入学し、高橋潔先生や大曾根源助先生に可愛がってもらいながら、勉強も楽しく学び、良く理解できた」と当時の思いに目を細めながらEさんは再婚時(初めは健聴の方)と結婚に、父親から、「お前は聞こえないのだから、嫁も聞こえない人

地域での取組の進捗状況には差がありますが、目標10000件の内、調査を終えている数は600件に近づいており、あとひと頑張りすることを確認しました。



**「聞こえなくても成長する」と母を  
励ました父・・・実態調査淡路地域**

が「良い」と言われ、今の奥さんと結婚を決意された。現在は娘夫婦や孫にも手話や指文字を教えて生活を楽しくしていると今度は笑顔で話してくれました。そして、Eさんの奥さんも「夫の両親が、全てを後押ししてくれたお陰で家族でやってくる」ことができた。本当に感謝している」と話されたことが印象的でした。戦時中や震災時の苦しい体験の話もありましたが、聞こえない自分たち夫婦を理解し、支え続けてくれた両親に対する感謝の気持ちをとても大切にされていると感じました。(実態調査淡路地域Bグループ)



社会生活教室 8/12「悪徳業者のねらいはあなたかも!？」午前は詐欺の手口をDVDで鑑賞し講師から対処法の講義。午後は、詐欺に合った経験話をグループで話しました。



☆読話教室ミニ交流会(洲本市)8/18「口の動きをお互い読んでみましょう」会話を楽しむ、色々なコミュニケーション方法を学びました

**とことん意思疎通・徹底的に学ぼう**

淡路4団体あいのり学習会

☆平成25年10月13日(日)

午後1時~5時

パート1 「ろう者の人生・その価値をどう伝えるか」

出演：大矢暹氏と淡路のろう者のみなさん

パート2 「意思疎通・意思決定・意思伝達」 講師 峰島 厚氏

☆場所 淡路ふくろうの郷

☆参加費 500円

# 続・地域を語る

## 第57号

### 先山の登山道路

東は三原郡内膳村より釈迦道  
路があり、北は志筑町より市原  
村を経て県道志筑先山線がある  
が、安阪村よりの参道は木樵で  
さえ往来しかねる細道で、困難  
の上もない為度々郡道編入  
を申請したものであったが、県道  
志筑先山線があるとの理由で提  
案にならず困っていた処、大正六  
年(一九一七)中野篤一郎氏郡  
会議員となつたので、かねて懸案  
の安阪村よりの本道を郡道に編  
入の要を説いて漸く郡道編入と  
なり、早速と道路改良工事をす  
ずめていたのだが、偶々大正十  
二年軍郡制廃止となり、自然工  
事も休止の状態となり、百方尽  
瘁するも一向にその効果なく遺  
憾に思つていた折柄、大正十二年  
(一九二三)中野氏は兵庫県会  
議員となるや、淡路東西を貫く  
交通道路として、又一国の神仏  
振興の中心たる先山と官幣大社  
伊弉諾神社とを連絡する道路の  
必要を説き、洲本入野線県道編  
入を唱え幸いにも認められると  
ころとなり、五カ年継続県費支  
弁工事の県会決議を得て翌年よ  
り大岩磐切崩して開さく工事に  
着手したものであったが「かかる

難工事にて多額の経費を要する  
県費は打ち切るべし、中野道な  
り」と、県会議場を騒がしたも  
のであったが、中野氏の不動の信  
念と、中川原村長武田幹重氏、  
高田力蔵氏及び地元中野丑之  
助氏、亀井儀平氏の努力により  
さしもの難工事も昭和六年(一  
九三一)完了されたものであ  
る。

併しながら本工事業費に対して七  
千余円の赤字を出し、これが補  
填の道がなく、中野氏の苦痛は  
大変なものであったが、往年大  
阪毎日新聞主催の日本百景に、  
淡路唯一の霊峰先山が当選さ  
れてから広く世に知られるよう  
になり淡路観光に訪れる人々の  
増加を見て、先山登山自動車  
会社創立案を持つて、全淡自動  
車会社に申込んだものだが、拒  
絶されたので、ついに中野氏自  
ら発起人となり昭和六年五月  
十五日先山登山自動車会社の  
許可を得て、洲本先山及び都志  
町へのバス運転の営業を開始し  
て、摂陽商船会社との連絡をと  
り、阪神各地の観光客の誘致に  
努め、国内はもとより、着船毎  
に団体客は元より阪神千人講  
等にて一日六往復と臨時増発  
に輸送しかねる盛況に、全淡自  
動車会社は先山自動車会社の  
株式買収をなし合併を策したの  
で、中野社長は辞任して、全淡  
自動車に譲渡したもので、全淡  
の淡路交通株式会社の前身、先

山登山自動車会社はこれであ  
る。  
当時の自動車会社の登記は左  
の通り

- 一、会社商号 先山自動車株式会社
- 一、資本金 金拾万円
- 一、老株金額 金五拾円
- 一、設立登記 昭和六年四月六日
- 一、取締役社長 中野篤一郎

※地方史の新研究  
(中川原村史より)  
以上

## 中川原高齢者・障がい者 地域ふれあいセンター

おかげさまで1年がたちました。  
— 記念誌作成準備中 —  
『中川原ふれあい物語』(仮称)

中川原高齢者・障がい者地域ふれあいセンター  
(以下ふれあいセンター)も7月で開設1周年  
を迎え、7月13日には「ふれあいセンター1周  
年の集い」を開催することができました。これも  
地域の皆様方、また関係者の方々の温かいご支  
援・ご協力のおかげです。

1周年を迎えたこともあり、ふれあいセンター  
では現在、「ふれあいセンター1周年記念冊子(仮  
称)」の作成に取り掛かっています。「おたがいさ  
ま中川原」「ふれあい広場桜ヶ丘」は地域と社会  
福祉法人の協働事業ですが、全国的に見ても珍し  
い取り組みだということでこの1年間に全国から  
多くの方が視察・見学に来られました。非常に  
関心を持っていただいているこのふれあいセン  
ターの取り組みを地域の皆様方はもちろんのこと、  
より多くの方々に知ってもらいたい、という想  
いからふれあいセンター運営委員、そして由  
本昌敏氏の格別なご協力のもと進めています。

また詳しいことが決まり次第、ご報告させて  
いただきます。

(ふれあいセンター…濱田良介)

### いつもご支援ありがとうございます

中川原産びっくり野菜  
をいただきました。



ジャンボ  
カボチャ  
となすび



7kgもある大きな冬瓜

### 作品紹介



伊達直人さん寄贈  
のふくろうもびっ  
くり!



ふくろう大学  
手芸講座  
8月22日

▲「いい香り!」福島豊子さん(83歳)